

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

「晩秋、カメムシが家に入るときは、冬は大害」との言い伝えがあるが、家周辺の米の収穫が終わっても、今年カメムシが家に入る

事が例年より大幅に少ない。代わりにヨトウムシがハクサイに大量発生し、他の野菜も害虫被害が例年以上だ。暖冬の影響との声が聞こえ、今年の降雪量が気かかりになってしまふ。またコロナ禍で手取り給与が大幅に減少、ガソリン価格が高止まりの中でスキーを楽しむ雰囲気でも無いのではとの観光事業者の切実な分析だ。

失敗した結果、生まれたと聞く。またインドを目標とした航海者バルトロメウ・ディアスは嵐に巻き込まれ、引き返す途中、アフリカ大陸喜望峯を発見した。スキー客減少が続く中、発想を大きく展開

## コロナ禍の災いを福にする取組みを期待したい

13.5%、全国で9位の上昇地価だ。昨年も同じ商業地で県内最も高い上昇率の30.3%。だが1平方メートルあたり2万7800円の地価は軽井沢などの地価に比べて格段に低いことも事実で、テレビ番組内

別荘地内での住宅建築が難しくなったためか、建築可能な集落に近い農地を活用した新築現場を多く見かける。聞くと、建築するには、多くの専門業者が限られた日程の中で工事を行うのだが、その業者の確保が難しいとの声。技術を有する人材の確保は増々広域対応が必要になって行くに違いないのだから。

そして資材の価格の高騰だ。特に信州を代表とする樹種「カラマツ」。ヤニが多く、製材してもネツレが出やすいと付加価値の高い利用は一部だけだった



ソバ畑を荒らすイノシシ?被害が多発。周辺農地の荒廃が大きな原因なのだろうか

が、国内のベニア板の材料が不足して、長らく日の目を見てこなかった信州カラマツが注目され品不足状態に。建築現場も確保に困窮しているようだ。これも「災い転じて福となす」事なのだろうか。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)